

失敗のその先

2025・9・17 重枝 一郎

よく「トライ&エラー」や「エラー&ラーン」という言葉を聞く。それは、「失敗」は人にとって重要な力を生み出すからである。「失敗」は、成功からは得られない成長と発展の機会を提供する。

では、具体的にどんな価値があるのだろうか。

1つ目は、失敗によって自分の弱点や改善の必要な点が明らかになる。つまり自分をよく理解することができるということである。

2つ目は、失敗をしたら、どうすればそれを回避できたかを必ず考える。自分の行動を振り返るプロセスで学ぶのは批判的思考力である。これは生徒もだが私たちが身に付けておくべき最も重要な力を言われる。単に否定的に捉えるひねくれ者ではなく、客観的に、本質的に物事をみて意思決定する力のことである。

3つ目は、レジリエンス（しなやかで折れない心）の向上である。私は特にこの点を強調したいと思っている。失敗経験での学びはこれからの人生をしなやかに生きるための大きな力となる。

4つ目は、イノベーションのきっかけになりうるということである。ビジネスの世界では多数の例がある。例えば、アメリカの3M社が簡単にはがれてしまう接着剤をつくってしまったという失敗から、ポストイットという世界的な大ヒット商品を生み出したエピソードは有名な話である。

5つ目は、本気だったかどうか、本当にやりたかったのかどうか、自分に合っていたのかどうかなど、本気で自分のことを考えることをする。そこが再確認できたら、またチャレンジするモチベーションにもなる。

「失敗」にこのような価値があると捉えると、必ず成長できる。思い出すことは難しいが、赤ちゃんの時は、数々の失敗をしながら成長していく。そうして今の自分がつくられている。赤ちゃんは、初めてなことだらけなので失敗だらけである。でも、私たちのこれからもわからないことだらけなので、失敗するのは当然である。赤ちゃんの時には、一歩踏み出す勇気を誰もがもっていた（1歳の孫を見てつくづく思う・笑）。

以前、「アジャイル」という言葉を紹介したのをおぼえているか（2023 センスオブミッション 11月号「行動のレパートリーを増やせ」）。成長戦略において、「早く失敗し、早く学び、早く成長する」という意味である。今の世の中はこういう考えでない生き残ることはできないと言われている。文具メーカーとして知られるコクヨでは「人より先に失敗する」という言葉をスローガンとして、会社内にチャレンジの風土をつくったと言う。本校で言えば、それが「チャーミングなファーストペンギン」ということになる。また、失敗をみんなで共有することも重要だと言う。そのため、失敗を称え合うことをするルールがあると言う。

そんな職場風土をつくるために、やってはいけない3原則がある。

①命の危機に関すること ②法律に触れること ③人の成長を邪魔すること

この3原則を守っていれば、チャレンジすることを不安なくできる。「うまくいかなかったことが分かったから大成功だな」のようなマインドをつくる。

こんな経験はないか。「散髪に行って、髪を思ったより短く切られてしまった」。その経験から「人に頼むときは、相手にわかるよう、言葉を補いながら伝えることが大切」と学んだはずである。思い通りならなかった経験が自分の言葉を育てる。これから先生たちには、先生たちの未来につながる「失敗」をたくさんしてほしいと思う。

【Nコンのその先】9月8日（月）に、M1・2が、春日中3年生に合唱コンクール課題曲「大地讃頌」の合唱の指導を行った。私も見学させてもらったが、本校の生徒たちはとても明るく堂々としていて、まさに「凛として花一凛」の姿だった。最後に、Nコンの合唱を披露し、大きな拍手と共に素晴らしい交流会になっていた。引率の新開・山本先生ありがとう。また、女学院祭でも全校生徒の前で、生で披露できた。よかった。